

ボランティアの心

自然の魅力を子供たちに

生環11期 菅田 忠志

「あれえ おじちゃんもまた来たん…」 「え～？」
「ぼくな この前の昆虫探しが楽しかったからまた来てん 今日には双眼鏡で鳥の観察するんやて。ほら双眼鏡も持ってきたんやで あっ おじちゃんかっこええ双眼鏡持ってるやん」
「あっそうか、おじちゃんはスタッフさんやったね」

* *

何度かお手伝いしてきた子どもたちを対象にした「自然塾」や「環境学習」ボランティア活動。参加してくれた子どもたちの中には顔なじみになった子もいる。

自分が子どもだった頃の田舎の環境がなつかしく、その頃体験した感覚がいまだに体の中にしみこんでおり、大げさに言えば今の自分の人間形成の屋台骨になっているのかもしれない。

耐乏生活を強いられてきたあの頃、その分周りの



豊かな自然がこころの栄養源となって育ててくれたのだろう。兎追いしかの山も、小鮒やうなぎを取ったかの川もわずかながらまだ残っている。我々の時代に大きく傷つけてしまったこの自然、もう壊されない。日本の未来を託すこどもたちには、是非自然の力や自然の魅力を少しでも多く体験しておいて欲しいと思う。

* *

「そうかぁ 昆虫探しが楽しかったんや 君のこころの中に昆虫が棲みついて友だちになったんやで

小鳥や花も友だちにしたらってな」

参加してくれた子どもたちの成長も早い。2～3年もすればすっかり大きくなり中学生に進学する子ども多いだろう。豊かな心が育つこの時期、自然環境を見つめ、考える機会を提供する中で、体感的に自然環境の大切さを学びとってくれれば嬉しいことだ。

どんなボランティア活動も『こころの通いあい』があってこそ「信頼」「感謝」が生まれ、達成感につながるもの。これからも『こころにひびく』ボランティアのお手伝いができればいいなと思っている。

(写真は09年8月、甲山森林公園で)

地震のチリへ帆船の張り絵贈る

大地震に見舞われたチリの被災者を励まそうと、むかしあそび研究会の有志グループが「エスメラルダと神戸」(60×90センチ=写真)と題した張り絵を制作し、神戸市社会福祉協議会に託しました。

張り絵は、染めた和紙を小さくちぎって台紙に張り付け絵に仕上げるもので、あざやかな色合いと落ち着いた雰囲気の特徴。研究会の新小田さんら8人が、阪神大震災の頃から手がけ、新潟地震



や四川地震の被災地などへ贈り続けてきました。チリ地震の惨状を聞いた新小田さんが、神戸港に浮かぶ帆船エスメラルダをイメージして下絵を描き、春から制作を続けて7月に完成したものです。エスメラルダはチリ国民にとってシンボリック存在の帆船で、メンバーは「少しでも被災者に喜んでもらえれば」と話しています。

9月23日には神戸中央カトリック教会で、チリ地震被災者救援のチャリティーコンサートが開かれ、張り絵も披露されました。作品は来年1月に現地へ届けられる予定です。

「情報ぎやらりー」新誌名を公募

情報ぎやらりーの新しい誌名を近く公募します。親しまれ、ボランティア団体の会報にふさわしいネーミングをお寄せください。広報委員会で選考のうえ、当選作品を決定します。優秀作品には図書券などを進呈します。応募規定の詳細は1月号で発表します。 広報委員会